

# 学びびや

ヨイニスイツツ

は、松岡は記念にと自身  
の絵画を寄贈していま  
す。その作品「静物画一  
は学校の宝物として長年  
愛されてきました(現在  
は学校歴史博物館で管  
理)。

また、竹間小には「静  
物画」と同じく大切に保  
存されている。京都の小  
学校には、このように親  
子二世代にわたって寄  
贈された絵画作品が数  
多く残っています。

四巻巻の画家、菊池芳  
文は中京区の明倫学区で  
誕生したのは1909年(昭  
和3)年のこと。幸野家  
は明治期に活躍した幸野  
芳文の死後、その子の  
孫の義一と続いた  
画家の家系です。四巻が  
寄贈したのは「静物画二  
(写真1)。酒をこよなく  
愛した親代の詩人を描  
いています。豊一は学校  
の子ともたにに向けて作  
品を贈りました(写真  
2)。これらは今も学校  
に飾られています。

1914(大正3)年、  
画家の上村松岡は中京区  
の竹間学区に転居し、画  
室を構えました。その4  
年後、地域の竹間小が創  
立50周年を迎えた際に  
化整頓費を充てて寄贈さ  
れます。

## 画家の血筋 地域根差す

以上作品からは、い  
かに多くの画家の血筋が  
向横で育まれ、地域に根  
差してきたかがよく分か  
ります。また、親から子  
へ、地域の学校を大切に  
思う心がしっかりと引き  
継がれている点でも同時  
に教えてくれます。



写真1、幸野西源「静物画一」(1935年頃、絵巻小蔵)



写真2、幸野豊一「仔鹿」  
(1935年頃、絵巻小蔵)

京都府立学校歴史博物館  
学芸員 森光浩

◇

今回紹介した「静物画  
一」と「仔鹿」を学校歴  
史博物館(下京区)では  
日々20:00～21:00まで展示  
しています。